



# 総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

このメールマガジンはスポーツ振興くじ助成金を受けて配信しています。  
スポーツくじについてはこちらから  
[スポーツくじ理念広報サイト「GROWING」]  
<https://www.toto-growing.com/>



## 特集★人材育成に取り組むクラブ

**NPO法人南部町総合型地域スポーツクラブ(鳥取県)**

[http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R5/MM172\\_suponetnanbu.PDF](http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R5/MM172_suponetnanbu.PDF)

## 特別企画★スポーツ少年団と連携・共同しているクラブ

**一般社団法人菊川スポーツクラブ(山口県)**

[http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R5/MM172\\_kikugawa.PDF](http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R5/MM172_kikugawa.PDF)

## 連載★学校運動部活動と連携するクラブ

**NPO法人スポーツクラブ21はりま(兵庫県)**

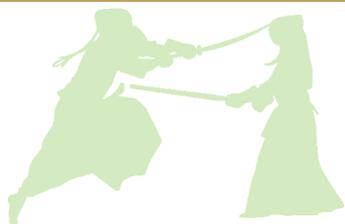
[http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R5/MM172\\_harima.PDF](http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R5/MM172_harima.PDF)

助成金情報 ▶▶▶ [詳細](#)

お知らせ ▶▶▶ [詳細](#)

バックナンバー ▶▶▶ [詳細](#)

全体版 ▶▶▶ [詳細](#)



## 特集

### ★人材育成に取り組むクラブ★

# NPO法人 南部町総合型地域スポーツクラブ (スポnetなんぶ) 鳥取県西伯郡南部町

活動基盤・活動環境をより充実させ、持続可能な総合型クラブの運営をめざすには、地域住民の主体的な参画によって推進され永続的な活動が行えるよう、新しい人材を積極的に受け入れ、世代交代を図りながら次世代の育成・継承に係る体制を整えることが必要となります。

そこで今回は、人材育成に取り組むクラブについてご紹介します。

## 1

### クラブ概要

「さまざまな世代がスポーツを通じてココロもカラダも健康に いつまでも地域で活躍できる活力あるまちづくり」を理念として、平成24年に南部町総合型地域スポーツクラブ(愛称:スポnetなんぶ)を設立。翌年NPO法人化し、平成26年4月から「総合福祉センターしあわせ」(プール・トレーニングルーム・お風呂を設備)の指定管理を受託。クラブの本格的な活動がスタートしました。

スイミングスクール・ダンス・体操・ヨガ等の定期教室や、グラウンドゴルフ・ウォーキング・卓球等のサークル活動など30種類以上のプログラムを展開しています。

平成27年には、マイクロバスを購入し(toto助成)、定期教室用の送迎車両として活用し会員エリアを拡大。体育館・グラウンド・屋内ドームなどの指定管理施設も順次受託して活動拠点も増やしてきました。当初、785名だった会員数は、現在では1,100名を超える方にご利用いただいています。

また、平成30年にはスポーツ少年団を、令和3年には町体育協会の事務局機能を、町から移管を受け、それぞれクラブのジュニアチーム事業、マスターズクラブ事業として新たに展開しています。

当初27名だったスタッフも、現在36名を雇用。加えて17名の外部指導者と42名の有償ボランティアの方にも活動を支えてもらい、合計95名が活動に携わっています。

法人化から10年を迎えましたが、「介護予防事業」「生活習慣病予防事業」「子育て」「教育」「観光」「まちづくり」などさまざまな分野で、行政と協働で事業を企画・実施して、スポーツや運動を通じた「まちづくり」の推進に取り組んでいます。



スタッフのみんな

## 2 クラブ環境を整備し、雇用の創出と人材育成に着手

### 人材の確保をめざし、不安定な雇用条件を改善 面談や内部研修で意識の向上を図る

クラブの運営を持続的なものにしていくためにも、地域スポーツに携わる者の雇用を創出し、かつ安定した雇用としていくことを大切にしてきました。

特に、クラブの収入基盤となるスイミングスクールの指導等を担う運動指導員は、特殊な職業のため、求人をかけてもなかなか人が見つからず苦勞してきました。クラブがスタートしたばかりのころは、経営的に先の見通しが立たず、パート職員や契約社員を優先して雇用していたので余計に苦勞しました。なんとか見つかったも、不安定な雇用条件ということもあり、慣れてきたころに辞めていくスタッフも多く、その欠員に対して求人をかけるも代わりがなかなか見つからず、見つかったもまた一から育てるという繰り返りで、クラブサービスを向上していこうにも、正直もどかしい状況が続いていました。

新規教室や事業の企画、会費設定の見直しや指定管理施設等の新規受託を通じて、収入源を増やしていき、徐々に正規雇用スタッフの枠を増やし、給料水準も少しでも改善できるように給料表や手当も変更してきました。

人材を確保すべく環境を整えていくと同時に、スタッフに対してクラブ理念や行動指針の浸透をしていくことも大切に取り組みました。商工会等にお世話になり業務チェックリスト(クラブ業務に携わるうえで大切にしている姿勢や専門技術等の達成度を自己評価するためのリスト)を作成し、それを活用しての年2回の振り返りチェックから面談を導入したり、スタッフの※OJTや※OFF-JTを通じた内部研修やミーティングを通して、熱意の創出と専門的知識・技術の向上に取り組んできました。

#### ※OJT

On the Job Trainingの略称。上司などが指導役となり、実務を通して知識やスキルを身につけてもらう人材育成法。

#### ※OFF-JT

OFF the Job Trainingの略称。日常の仕事を通じて教育を行うOJTに対し、特別に時間や場所を取って行う教育・学習を指す。

## 資格取得に関しても積極的に支援を行う

外部での研修や資格取得講習会への参加についても、クラブからの参加費助成など金銭的な支援を行ってきました。JSPO公認クラブマネージャーやアシスタントマネージャーなどクラブ運営に直接役立つ資格から、健康運動指導士やJSPO公認水泳教師、そのほか指導技術アップにつながるものなどへ予算立てをして順次希望に応じて参加の機会を設けてきました。新規採用職員には、ビジネスマナー研修会への参加もしてもらい、他業界の新規採用者と共に学べる場への参加を促してきました。

## 気軽に参加できる講習会も企画。指導者たちの意見交換の場に

また、近隣で活躍されている指導者を講師としてお招きし、クラブで実践できる技術等を学んでもらう講習会も開催しています。内容によっては、地域のボランティア指導者の方へも声掛けをし、一緒に勉強するようにしています。ジュニアチーム(スポーツ少年団)やクラブ事業に携わる指導者の方は、日々お忙しくされており、遠方での研修会等に参加する余裕がない方も多いです。そのような方でも、気軽に参加していただけるように、さまざまな種目共通で使える子どもたちのトレーニング研修会、安全講習会、保護者も巻き込んでの子育てコーチングセミナーの開催。時にはお酒を飲みながらの意見交換会をすることで、日ごろの悩みを共有し、また明日からの子どもたちへの指導のモチベーションを高めることにつながればと開催してきました。

## 【これまでにクラブが企画した研修会の一例】

- 子どもたちの競技パフォーマンスを向上するトレーニング法
- 競技パフォーマンスを向上する靴選び
- 子どもたちのモチベーションを高めるコーチング法
- 救急法講習会、水上安全講習会
- 冬に差がつくトレーニング講習会
- キネシオテーピング講習会
- 体幹トレーニング講習会
- 冬に差がつくトレーニング方法  
(子どもたちの発育・発達に応じたパフォーマンスアップ)
- やる気と能力を引き出す子育て法
- ティーチングからコーチングへ傾聴・承認・質問で子どもの能力をどう引き出すか?
- 部活動指導員合同研修会
- 部活動の地域移行セミナー

研修会の内容については、スタッフや地域の指導者が希望される内容をベースに、近隣で講師を務めてくださる方を探すことから始めます。また、クラブマネージャーやスタッフが、こんな内容で勉強してもらいたいと日ごろから感じているテーマを取り入れることもあります。

講師に関しては、予算の関係上、遠方からお呼びする機会は少ないですが、「やる気と能力を引き出す子育て法」のセミナーは近隣のスポーツクラブから声をかけていただき、合同で京都から講師をお招きして開催しました。また、部活動の地域移行セミナーも、鳥取県スポーツ協会の支援により大阪から講師をお招きして開催しました。

参加費は、クラブに携わっている方や、南部町内で指導をされている方は、材料費以外には徴収していません。それ以外の方からは、1,000円程度の参加費をいただく場合もあります。参加者は各研修会で10名程度。一番多いときで40名ほど参加いただいたこともあります。



子どもたちのやる気を育てる  
コーチング研修会



スタッフと地域のボランティア  
指導者さんの合同研修会



合同での安全管理講習会

## 3

## 試行錯誤、失敗の連続…を乗り越えて 若いスタッフが活躍する場に

### ひたむきな姿勢で企画を盛り上げる

これまで手探りでいろいろなことを試行錯誤してきました。人材育成の経験は乏しく、これといったノウハウもなく何が正解かもわからないなかで、もちろん失敗の連続でした。想いを伝えたいつもりが相手には十分に伝わっていかず、相手が求めているサポートが必要なときにできず、すれ違いが重なったり、クラブを軌道に乗せていくためにと新しい事業や企画に取り組みましたが、みんなの仕事の忙しさに輪をかけてしまい、さらにスタッフとのコミュニケーションがとれなくなったりと…。

そのような状況で、スタッフの想いや熱意などチームのベクトルを同じ方向にしていけることができず、辞めていくスタッフもいました。思い返せば反省点ばかりですが、それでも今、20代～30代の若い世代のスタッフが一生懸命にクラブを盛り上げてくれています。クラブや地域で育った子どもたちが、スタッフとして還ってきてくれています。失敗を繰り返しながらも、また新しい人材に出会うことができ、その若い世代のスタッフたちが、地域の方に喜んでいただくためさまざまな企画を練りチャレンジしてくれています。

特にコロナ禍でさまざまな制約を受け、苦しい期間が続きましたし、5類(感染症)になった以降も以前のようにはいかず、利用の伸び悩んでいる期間が続いていますが、スタッフの頑張りがあるからこそ、クラブ全体のモチベーションも高まりますし、素直でひたむきな姿勢があるからこそ、地域の方や会員の皆さまにも、それを受け入れ寄り添っていただくことができています。

## 4

## 地域で育った子どもたちが 支える側となる…好循環をめざして

### さらに広がるクラブが果たすべき役割に対応する人材育成を

「体を動かす」機会や場が減少するとともに、複雑・多様化した社会のなかでストレスや生活習慣病の増加、少子高齢化、価値観の多様化、人間関係の希薄化などにより余暇の過ごし方が見直されてきました。また、子どもたちも、いじめや不登校の問題をはじめ、仲間づくりなどの社会性の欠如、元気に遊ぶ子とそうでない子の二極化の拡大、生活習慣病の増加など、子どもたちの問題も深刻化しており、家庭や地域社会で担うべき分野、社会や生活の変化に対応した教育力の充実がますます求められるようになっていきます。

めまぐるしく変化する時代であっても、スポーツをすることによって得られる感動、豊かな心、人と人とのつながりは変わらずに存在します。

このような状況のなかで、健康スポーツ・文化振興に関する事業を通じて、地域の方の健康保持・増進に努め、他団体との連携を図り、生涯スポーツの場を確立していき、地域における青少年の健全育成、住民同士の交流の活発化にと、クラブが果たすべき役割はますます広がっていきます。今後10年、20年と持続可能なクラブ運営をしていくためにも、想いや情熱を持ったスタッフがそ

の中心となって頑張ってくれることが、とても重要です。引き続きスタッフと一緒に悩み喜びを共にしながら、ただスポーツを個々が楽しむだけでなく、スポーツを通じて地域の方に寄り添い、交流・支え合いの輪を育てながら、地域課題や社会課題に立ち向かっていきたいと思えます。そこで育った子どもたちが、次は支える側となって還ってきてもらえるような人材の好循環をめざし活動していきたいです。

NPO法人南部町総合型地域スポーツクラブ(スポnetなんぶ) クラブマネジャー 板 真悟

## クラブプロフィール

**設立年月日** 平成24年11月4日(平成25年12月4日 法人登記)

**所在地** 鳥取県西伯郡南部町法勝寺331-1

**運営** 会員数: 1,149名(令和5年12月現在)、予算規模:1億4,200万円(令和5年度)

**特徴**

- ・44種類の定期活動を実施
- ・指定管理施設4施設運営  
(プール・トレーニングジム・体育館・グラウンドなど)
- ・スポーツ少年団、マスターズクラブ、マラソン大会事務局
- ・100歳体操など介護予防事業等受託
- ・37名雇用

**連絡先** 〒683-0351 住所:鳥取県西伯郡南部町法勝寺331-1

TEL:0859-66-5400 FAX:0859-66-2901

HP:<https://www.suponetnanbu.jp>

E-mail:shiwase@suponetnanbu.com

## 特別企画

### ★スポーツ少年団と連携・共同しているクラブ★

# 一般社団法人 菊川スポーツクラブ 山口県下関市

総合型クラブが地域に定着し、浸透するためには、地域との一体感の醸成が重要となります。そのためには、スポーツ少年団をはじめとする地域のスポーツ団体等と相互扶助の関係を築き、地域社会からの信頼性を確保し、地域に根差す団体となる必要があります。

そこで今回は、スポーツ少年団と連携・共同し、地域におけるスポーツ推進体制を高めているクラブを紹介します。

## 1

## クラブ概要

### スポーツ少年団を母体として設立された総合型スポーツクラブ

菊川(山口県下関市)は昭和の時代からスポーツが盛んで、子どもたちへのサポートが手厚い環境です。しかし、平成17年2月に下関市と旧豊浦郡4町(菊川町、豊田町、豊浦町、豊北町)が合併した際には、「菊川の良さ」が失われてしまうのではないかと懸念が地域で高まりました。「菊川の良さ」を受け継ぐための話し合いが何度かもたれ、そのなかでスポーツ少年団を母体とした総合型スポーツクラブを設立する方向で意見はまとまりました。同年5月にクラブ設立の準備委員会が発足し、その当時あった13団の選手と指導者、設立に賛同いただいた方々が会員になり、翌18年10月1日にクラブは設立されました。

その後、クラブは平成19年4月から菊川体育施設の指定管理を受託。翌20年から5年間はスポーツ振興くじ助成事業を活用し、各種教室の事業を充実させながら平成27年に一般社団法人の法人格を取得しています。現在では、市の委託事業も増え、地域スポーツの拠点として活動しています。

#### 〈令和5年度実施教室・活動〉

- ・大人教室(3教室、5サークル) ・小人教室(10教室) ・ジュニア活動(スポーツ少年5団、他2つ)
- ・その他1つ(登山) ・大会、イベントの開催 等

#### 〈会費〉

- ・大人教室と小人教室は年会費+保険料のほかに、教室ごとの月会費等を徴収
- ・ジュニア活動は入会費のほか、団やクラブごとに年間会費または月会費を設定

#### 〈会員数〉

605人

〈事務局〉

理事7人、監事1人、クラブ職員14人(理事のうち1人は事務局長)。施設の管理運営を行いながらクラブ事業に関わっています。職員のうち5人が主としてクラブの事業(教室等)を行っており、教室についてはクラブ外の指導者にも指導をお願いしています



夏休みの企画「サマーチャレンジ」での低学年の水鉄砲合戦の様子です。1週間、低学年高学年に分かれて、勉強、水泳、スポーツを行います

2

## スポーツしたい子どもたちの希望に合わせた多様な活動

### ジュニア活動は少年団登録と登録なしの2本立て

菊川スポーツクラブでは、スポーツ少年団とスポーツ少年団に登録していない団とを一緒にして、ジュニアと呼んでいます。スポーツ少年団に登録している軟式野球、ソフトボール、サッカー、バレーボール、剣道の5団体と、週2回の卓球、週1回のアスリートクラブ(陸上競技)になります。アスリートクラブはスクール(体力づくり)、クラブ(大会参加)、プラス(大会上位入賞をめざすなど)の3つに分かれていて、スポーツ少年団と兼ねて活動している子どもたちもいます。



剣道スポーツ少年団(剣友会)  
中学生の受け入れも行っています



菊川野球スポーツ少年団  
試合風景



アスリートクラブ  
アップのラダー風景

## 2歳から参加できる幼児体育教室

また、ジュニア活動以前の2歳児から年長までの子どもたちには、「ちびっこぴよんぴよん教室」として、幼児体育教室を開催しています。運動公園・体育館とプールで年間を通して活動を行っており、からだ全体を使った外遊びやマット運動、跳び箱、鉄棒、ボールなどを使って楽しみながら基礎的な運動能力の育成をめざしています。

小学生になるときに、「何かスポーツを続けてやらせたい」という保護者からの相談もよくあるのですが、そのような子どもたちは、ジュニア活動にそのまま参加することもできますし、チャレンジキッズという低学年対象の多種目の教室に参加し、そこからジュニアに移行する子どももいます。

## 入会から登録、会費徴収、保険まで事務局で一括手続き

総合型クラブが事務局となってスポーツ少年団の団員募集、入会手続き、入会費の徴収、各団の登録、保険等の手続きを行っています。クラブの教室に参加している子どもも、ジュニアで活動している子どもも保険はクラブで一括して入会しているため、複数入る必要はありません。また、万が一クラブ活動で事故があった場合は、事務局で保険に関する手続きを行いますので、指導者への負担はありません。また、大会や行事を行う場合の受付や事務作業等も事務局で引き受けており、指導者にはそれぞれの指導に専念してもらっています。

## クラブ立ち上げ時に発生した二つの問題点

クラブ立ち上げの際には、二つの大きな問題が発生しました。

一つは、スポーツ少年団関係者に入会費の話をしたところ、活動費以外に入会費を徴収することに否定的な意見が出てきました。「なぜそんなお金が必要になるのか」、「今まで自分たちでやってきたのに、どうして変わるのか」など、同意はなかなか得られませんでした。関係者に納得してもらえるように、スポーツ少年団の管理を受託する際に発生する諸雑費(会費管理、保険手続き等)に関して丁寧に説明し、何度も話し合いを行いました。今では当たり前になった入会費ですが、立ち上げの際は大きな問題でした。

もう一つは、いろいろなスポーツを経験したいという子どもたちには、十分な環境をつくることができましたが、各スポーツ少年団の主力メンバーである子どもが複数の競技活動をしている場合、大会日程が重なった際に指導者同士が言い争いになる等の問題も出てきました。これも今では、基本的には子どもたちの意見を尊重し、決定することになっています。

## 3

## 子ども、保護者、指導者が一緒に楽しむクラブづくり

### 活動するなかで学ぶことはたくさんある

昨今スポーツ少年団活動より、週1回の教室への参加が多く、活動が継続できない単位団も増えてきました。新たな種目を始める際に、週1回の教室からやりたいスポーツを見つけ、それからスポーツ少年団の活動に進んでほしいと思うのですが、働いている保護者も多く、休日の活動は負担になるのかもしれませんが、しかし、保護者の皆さんに支えられて、スポーツ少年団活動はつくり上げられていきます。スポーツ少年団がまとまっていく過程を経験することによって、子どもたちも成長していくものです。人との関わりが薄い現在では、このような経験はとても貴重なものだと感じます。

いろいろな選択肢があることがうれしいと言ってくれる保護者もありますが、土日を中心としたスポーツ少年団の活動には保護者からのサポートがネックになるという声もあります。

指導者から保護者の皆さんへは、「送迎だけをしてもらえればいいです」「子どもたちがやりたいのなら参加させてください」等の話をさせていただいています。「お手伝いはあまりできないかも…」と言っていた保護者が、子どもの上達を見るにつれ、いちばんの応援者なることもよくある話です。

「スポーツをする子・しない子」の二極化とよく言われますが、子どもが活動したいのなら、ぜひ参加させてあげてほしいものです。活動するなかで学べることもたくさんあります。保護者の皆さんも子どもたちと一緒に、活動を楽しんでほしいと思います。

## 4

## 「菊川の良さ」を受け継ぐ未来へ

### 地域の環境に合ったやり方を形にして、当たり前前やり方へ変えていく

17年前、スポーツ少年団を母体にした子どもたちの環境づくりからクラブを設立し、いろいろな課題にぶつかりながら、道を開いてきました。今では、その仕組みづくりで何の違和感もなくスポーツ活動ができています。菊川の地域に合ったやり方を進んできたからだと思います。

次へつないでくれる後継者の育成、マネジメントをする人材の確保が今後の課題です。このクラブで育った子どもたちが、運営担当や指導者としてクラブに携わってくれることが、次につながるクラブづくりでもあると考えています。

現在の地域の課題は中学校部活動地域移行です。クラブでは卓球・陸上競技については、ジュニアの活動と同時に中学生の受け入れをして、部活動のほかにも技術指導を受けたいという子の補強を行っています。

クラブは下関市の運動部活動地域移行実証事業に関わっていますが、学校や地域の皆さんの理解を得ることなど課題は山積みです。しかし、「これも菊川スポーツクラブ設立のときと、同じことだ」と考えるようにしています。何年かかるかわかりませんが、いろいろな課題をクリアしながら菊川の地域に合ったやり方を形にして、それが当たり前前環境になっていくことで、子どもたちのため、地域のためになると思います。これからも「菊川の良さ」を受け継ぐことを信じて進んでいきたいと思っています。

## クラブプロフィール

**設立年月日** 平成18年10月1日(平成27年4月1日 法人登記)

**所在地** 山口県下関市菊川町大字下岡枝56番地 1

**運営** 会員数:605名(令和5年11月現在)、予算規模:4,100万円(令和5年度)

**特徴** 子どもと高齢者を中心とした活動が多い  
菊川体育施設の指定管理を受けている  
行政と協働している(お互いが足りないところを補いながら活動している)  
地域の団体と協働しての活動が多い

**連絡先** 〒750-0317 住所:山口県下関市菊川町大字下岡枝56番地1  
TEL:083-287-2820 FAX:083-287-3000  
E-mail:kikugawa-sc@cyber.ocn.ne.jp

★本記事の読み上げ動画を作成しました！

忙しく記事を読む時間がない方でも、耳を傾けていただくだけで内容を把握することができるよう、本記事を読み上げた動画を作成しました。移動時間やスキマ時間などにぜひご活用ください！  
動画はこちら▶<https://youtu.be/B-eVN1c4avM>



## 連載

### ★学校運動部活動と連携するクラブ★

# NPO法人 スポーツクラブ21はりま 兵庫県加古郡播磨町

学校運動部活動を巡っては、少子化による生徒の減少、それに伴う教員数の減少、専門的指導力を持つ教員の不足等により、生徒のニーズに応じた部活動自体が成り立たなくなる現状があります。

文部科学省では、令和5年から令和7年までを「改革推進期間」と位置づけ、休日の部活動について、合同部活動や部活動指導員の配置により地域と連携することや、学校外の多様な地域団体が主体となる地域クラブ活動へ移行することについて、地域の実情等に応じて可能な限り早期の実現をめざすよう各自自治体求めており、総合型クラブにおいても学校運動部活動との連携が期待されています。

そこで今回は、学校運動部活動と連携するクラブの取り組みを紹介します。

## 1

## クラブ概要

### 新しい生涯学習社会の構築に寄与することをめざして

兵庫県教育委員会「ゴールドプラン21」事業が発表され、小学校区にそれぞれ総合型クラブが設立されてから早24年が経過しました。その後、当クラブは「持続可能な総合型クラブ」をめざし、平成16年度に法人格を取得、「NPO法人スポーツクラブ21はりま」となりました。

「世代間を超え、いつでも、どこでも、誰もがができるスポーツ活動を通じ、健康づくり、コミュニティづくり、健やかな人づくりをめざし、明るく心豊かなまちづくりを進める」が当クラブの理念です。

「する、みる、ささえる」スポーツへの参画を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するために、幼児期からのスポーツ環境を整え、中学校における部活動の地域展開をめざし、新しい生涯学習社会の構築に寄与します。

#### ●会員数

未就学児	小学生	中学生	高校生	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～69歳	70歳～	合計
47	911	356	99	246	256	296	327	193	452	3,183

#### ●会費

入会金:1,000円

年会費:子ども 1,500円 大人 2,000円

## ●2023年度プログラム

- ・はりま陸上クラブ※
- ・SC21はりまサッカークラブ※
- ・はりまキッズ体操※
- ・SC21はりまミニバスケットボールクラブ※
- ・はりまスナッグゴルフクラブ※
- ・トップランテニススクール
- ・ストレッチ&体幹ヨガ
- ・健康太極拳教室
- ・バドミントンスクール
- ・個人フットサル
- ・コミセンぐるり
- ・筋太郎体操教室
- ・中村堂少年軟式野球教室
- ・ベビー親子体操
- ・ヴィッセル神戸サッカースクール

※クラブの職員が指導者として指導を行うクラブ。その他は外部指導者によるスポーツスクール。

## ●子どもいきいきスポーツ教室

小学生を対象に、土日を有効に過ごすための健全育成支援とスポーツに触れる機会づくりを目的に実施。

年間5期 1期1～5回程度 会費1期500円(会員)程度で実施しています。

### 【実施教室】

サイクリング、サマーキャンプ、手芸、バドミントン、サッカー、スナッグゴルフ、陸上競技、軟式野球、軟式テニス、ミニバスケットボール、バレーボール、クォーターテニス、モルック、ダーツ、スラックライン、スキー

## ●指定管理施設

播磨町総合体育館、新島球場、浜田球場、浜田テニスコート、望海公園球場、はりまシーサイドドーム、秋ヶ池運動場、うみえーる広場

## ●理事、職員、スタッフ

理事:15名、職員:7名、アルバイト:24名

## 2

## 令和6年度に向かって これまでクラブが取り組んできた道筋

### 今後は中学校部活動の地域移行の受け皿としての役割を推進

播磨町から中学校の部活動連携についての方針が示された段階で、教育委員会からその受け皿としてクラブに依頼がありました。そして、令和5年度から徐々に事業が進められてきましたが、令和6年度からは正式に委託されることとなりました。現在、クラブに完全移行したのは剣道とハンドボールの2種目で、部員はクラブに会費を支払い、保険はクラブが加入して活動しています。

地域移行の運営に必要な財源、指導者の確保、活動施設、指導者研修会などの詳細については下記の通りです。

#### 1. 播磨町における令和4年度までの取り組み

- 部活動指導員配置事業 令和2年度
- 運動部活動推進事業(スポーツ庁委託事業) 令和3年度
- 地域移行意見交換会の実施 令和4年度2回実施  
委員メンバーは、町教育委員会・中学校校長・部顧問・地域指導者・クラブ職員等 計20名
- 令和4年度播磨町部活動地域移行アンケート調査 令和4年12月  
<https://www.town.harima.lg.jp/gakkokyoiku/kyoiku/documents/chiikibukatudou.pdf>
- 播磨町学校部活動の地域クラブへの移行ガイドラインの策定 令和5年3月  
<https://www.town.harima.lg.jp/gakkokyoiku/kyoiku/documents/gaidorain.pdf>

#### 2. 播磨町の部活動の現状

##### ●新たなクラブ活動

##### 剣道:学校部活動から完全移行

剣道部顧問が不在となることから廃部が決定していましたが、活動継続のために地域の指導者へ地域クラブとして設立を依頼し、地域移行が実現したものです。現在は、中学校教諭も兼職兼業制度を活用し、地域指導者として指導を行っています。

##### ハンドボール:小学生クラブから新規創設

小学生ハンドボールクラブの子どもたちから、中学生になっても活動を継続したいとの要望がありました。そこで、小学校教諭が兼職兼業制度を活用し、地域指導員として指導にあたり、地域クラブ設立となったものです。

##### 卓球:休日部活動の地域移行

卓球部は、当初より、既存の部活動に地域指導者が入り活動を行っており、休日部活動の完全移行と同時に教員の指導者も兼職兼業制度を利用し、地域指導者として継続して指導を行っています。

### 文科系クラブ:新規創設

地域で活動する団体等により、地域クラブとしてボランティア部・理科クラブ・美術部が創設されました。

また、令和6年度より茶道部と華道部のスタートをめざしています。地域で教室を実施されている各先生との打ち合わせ会を実施し、実施会場や必要備品等についてのヒアリングを行いました。

### ●学校部活動へ地域指導者派遣実施

以下の既存部活動には、外部指導者を派遣しています。指導者派遣は土日だけに限らず、平日に活動可能な指導者がいる場合は、平日にも派遣しています。

また、派遣している指導者は、地域の大学生や主婦の方々が地域指導者として登録しているタイプと、教職員が兼職兼業制度を利用して、休日の活動を地域指導者として活動しているタイプがあります。

サッカー部、ソフトテニス部、バレーボール部、軟式野球部、陸上競技部、バスケットボール部

### ●指導者研修会 令和5年度4回実施予定

子どもたちに質の高い技術指導や、安全・安心な活動等を提供できるよう、各部門の専門家(大学教授等)による研修会を開催しています。

**対象:** NPO法人スポーツクラブ21はりま登録団体指導者・部活指導員

**内容:** スポーツガバナンス、コンプライアンス、ハラスメント防止

トレーニング理論、スポーツ医・科学理論

播磨町における中学部活動について 等

No.	日時	研修内容・講演テーマ	講師
1	8月5日(土) 19:00~	①部活動は不思議なもの ②中学部活動の地域移行について	① 高見 嘉彦 (播磨町教育委員会地域部活動コーディネーター) ② 吉野 雅文 (NPO法人スポーツクラブ21はりま事務局長)
2	9月9日(土) 15:30~	①I play tennis/the guitar.を改めて考える ~日本人のスポーツ教育観、さらには中学生 に対する教育をどう捉えるべきか~ ②トレーニング理論について	①森田 啓之 (兵庫教育大学大学院 教授) ②西尾 和典 (兵庫大学 非常勤講師)
3	11月18日(土) 13:00~	①スポーツにおける児童・生徒との関わり ②指導者はなぜ暴力的に振る舞うのか	①伊藤 克広 (兵庫県立大学国際商経学部 教授) ②森田 啓之 (兵庫教育大学大学院 教授)
4	3月3日(日) 10:00~	①班別討議型研修	伊藤 克広 (兵庫県立大学国際商経学部 教授) 森田 啓之 (兵庫教育大学大学院 教授)

### 3. 財源について

播磨町と当クラブにおいて、令和5年度中学校部活動地域移行推進事業の業務委託契約を締結しています。

委託費:7,607,000円

内訳:報償費5,241,600円、旅費760,720円、需用費603,995円、役務費309,140円、一般管理費691,545円

### 4. 指導者の確保について

まずは、教職員の協力が第一と考えており、兼職兼業制度を利用した地域指導者の登録を推進しています(現状:小学校教諭1名、中学校教諭2名)。また、地域で活動を実施している指導者や大学生、保護者等への声掛けを行い、指導者を発掘しています。地域指導者への登録を希望していた方は、教育委員会との面接の上、採用を決定します。

令和5年度は、1時間あたりの謝金を1,200円とし、1種目あたり1日2名までを限度としています。また、平日2時間、土日3時間、大会時は6時間を1日の活動時間の限度としています。

### 5. 活動場所について

現在、部活動における利用施設は学校施設のみです。なお、播磨町スポーツ施設および学校開放事業による施設調整は、当クラブにおいて、一般利用との調整を一括して実施しています。

### 6. 連携している団体について

- 播磨町サッカー協会をはじめ、播磨町スポーツ協会所属の競技団体(種目協会)と連携し、今後の方針などについて協議を行っています。
- 播磨町総合スポーツ施設を利用している登録団体、青少年育成団体には、クラブ主催事業であるスポーツ大会(SC21はりま杯)の運営を実施していただいています。また、クラブが主催または主管する大会やイベントの際に、ボランティアとしても参加いただいています。  
例)播磨町ロードレース大会(登録団体スポーツボランティア約180名)
- 今後、播磨町が連携協定を締結している大学との連携について協議していく予定です。  
今後予定されているのは、中学校の部活動地域移行に関する調査研究、当クラブへの学生派遣、教室、イベント開催時におけるエビデンスの蓄積とデータ検証等による研究、クラブマネジメント人材育成のための実施体験等です。

3

取り組みの課題とその解決策…

問題・課題解決のために重要な役割を担う  
地域部活動コーディネーター

取り組みに関する課題としては、部活動の地域移行について教職員の理解が得られないことや、指導者の登用の際の責任問題、研修制度や資格制度の構築、指導者の活動実績の把握と謝金支払い等の事務作業負担などがあります。

また、種目数が少ないため部員が1種目に集中してしまい、十分なプレーが行えないことがあり、新規クラブの創設が大きな課題となっています。

新規クラブの創設にあたっては、行政が実施したアンケート結果からバドミントンクラブの創設意向が強いことがわかり、バドミントン1DAYスクールを開催しました(参加者:小学5~6年、中学1年生、約20名)。実施後アンケートでもクラブ設立の要望が強く、今後創設をめざしていきます。

大きな問題点や変更点などについては、毎月実施している行政とのミーティングでその都度話し合うことが問題解決への早道です。

多岐にわたって出てくる問題・課題に対しては、迅速に地域部活動コーディネーターと情報共有し、学校現場との調整を行っています。教育委員会、学校、総合型クラブが連携し取り組みを進めているなかで、今年度教育委員会により配置された地域部活動コーディネーターの役割がとて大切であることがわかりました。コーディネーターは元学校長であり、学校の実情の把握や教職員とのつながりもあることから問題点の引き出しや調整に寄与しています。



兵庫県スポーツ協会主催の次世代のクラブマネジメント人材育成プロジェクト実習生による企画。めざすはバドミントンクラブの設立



バドミントンスクールの状況



バドミントンスクールアンケート

4

## 中学部活動の地域移行は 生涯教育の入り口としての重責を担う

### 平日部活動の地域移行も目標に掲げて活動

部活動の地域移行をきっかけとして、スポーツのみならず文化活動にも対応できるよう文化協会等の団体との連携を進めなければなりません。現在、文化関係の受け皿となっている施設を指定管理者として受けているNPO法人ニュー☆ハリマとも今後、綿密な連携が必要となります。

また、事業規模が大きくなるにつれ、事務局員の負担の増加があり、新しい人員の確保と人材育成が大きな課題となっています。そこで、部活動の地域移行(展開)の取り組みの一つとして、大学との連携が進められています。播磨町が兵庫大学、流通科学大学と連携協定を締結しており、次年度より流通科学大学より学生派遣が実施される予定です。

部活動地域移行(地域展開)の計画案としては、休日部活動は令和7年度までに完全移行し、平日部活動も令和10年までに完全移行をめざしています。そしてこれからは、平成18年より行ってきた播磨町スポーツ施設の管理業務を継続することはもとより、当クラブのさらなる機能充実により、新しい生涯教育を担う組織体の再構築が強く求められています。当クラブは、社会教育の受け皿としての重責を担っていますが、文部科学省が推し進める「中学部活動の地域移行」は、播磨町のこれからの生涯教育の再構築の入り口であると認識しています。そこで、中学部活動の地域展開を皮切りとして、施設管理のさらなる充実と生涯スポーツ社会や共生社会の実現のための各種事業を提案し展開していきたいと考えています。

NPO法人スポーツクラブ21はりま 事務局長 吉野雅文

### クラブプロフィール

**設立年月日** 平成12年10月24日(平成16年11月29日 法人登記)

**所在地** 兵庫県加古郡播磨町本荘70-1

**運営** 会員数:3,183名(令和5年3月現在)、予算規模:1億1千万円(令和5年度)

**特徴** 「世代間を超え、いつでも、誰もができるスポーツ活動を通じ、健康づくり、コミュニティづくり、健やかな人づくりをめざし、明るく心豊かなまちづくりを進める」を基本理念として活動を行っています

**連絡先** 〒675-0154 住所:兵庫県加古郡播磨町本荘70-1  
TEL:079-437-2201 FAX:079-437-3382  
HP:<https://www.sc21-harima.com/>  
E-mail:info@sc21-harima.com

## 助成金情報

### ノエビアグリーン財団2023年度助成事業

**【実施団体】** (公財)ノエビアグリーン財団

日本を代表するジュニアスポーツ選手の育成、また、青少年の健全な育成に寄与することを目的として、一般公募による助成活動を実施しています。

**【団体】** 児童、青少年の健全育成の向上を目的とした体験活動、およびスポーツの振興に関する事業を積極的に行い、または奨励している団体。

**【個人】** 将来、世界大会やオリンピック、パラリンピック出場等をめざすアマチュアスポーツ選手(18歳以下)。

**【申込期間・方法】** 2023年12月1日(金)9:00~2024年2月29日(木)正午12:00

団体と個人で応募できます。詳しくは、以下のホームページをご確認ください。

<https://www.noevirgreen.or.jp/grants/index.htm>

## お知らせ

### 「生涯スポーツ・体力づくり全国会議2024」開催のお知らせ

本会議はスポーツに関連する多様な人々が一堂に会し、研究協議や意見交換を行う機会として、スポーツ庁とJSPOを含む実行委員会が毎年開催しています。

本年度は、来場のみで開催となり、女性スポーツや部活動の地域連携・地域クラブ活動移行に関する分科会もございます。クラブ活動に有益な情報もございますので、この機会にぜひご参加ください。

■期 日:令和6年2月9日(金)

■会 場:愛媛県民文化会館(愛媛県松山市)

■参加費:会議参加費 1,980円(税込)

情報交換会費 5,500円(税込)※希望者のみ

■参加申込期限:令和6年1月26日(金)

■全体テーマ:『「Sport in Life」の実現を目指して、今、求められること』

■内 容:

#### 全体会

「地域の人々のスポーツを通じたライフパフォーマンスの向上に向けて」

#### 分科会

・第1分科会 日本スポーツ協会(日本パラスポーツ協会)

「『もっと、女性が、スポーツを楽しむ社会』の実現を目指して」

・第2分科会 日本レクリエーション協会(スポーツ健康産業団体連合会)

「『スポーツは楽しい』を全ての人に

～楽しいと感じる心のしくみに着目した運動未実施者へのアプローチ～」

・第3分科会 全国スポーツ推進委員連合(日本スポーツ施設協会)

「地域課題に応じた自立的なSport in Life推進システムを模索する

～多様な連携・協働を支援するスポーツ推進委員の連絡調整～」

・第4分科会 健康・体力づくり事業財団(スポーツ安全協会)

「健康づくりにおける筋力トレーニングの活用

～筋トレが次期身体活動・運動ガイドラインに取り上げられることへの対応～」

・第5分科会 愛媛県スポーツ協会

「学校運動部活動から地域でのスポーツ活動へ～愛媛のスポーツ100年を迎えて～」

#### <備考>

本会議は、各主催団体の公認資格に係る更新のための研修・単位等に該当します。詳しくは以下のURL先をご確認ください。

▼詳細および参加方法はこちら

<https://sports-in-life2024.com/>

#### <問い合わせ先>

日本スポーツ協会スポーツプロモーション部プロモーション課(実行委員会事務局)

shougai@japan-sports.or.jp